

北陸石仏の会々報

第 21 号
平成12年3月30日発行

編集発行 (年会費 三〇〇〇円)
北陸石仏の会(日本石仏協会北陸支部)
代表 久世 嘉太郎
富山県砺波市太田一七七〇 尾田武雄方
電話 〇七六三―三二二―二七七二
振替 〇〇七四〇―二二―一九七四

武生の石仏にお逢いして

加藤 永子

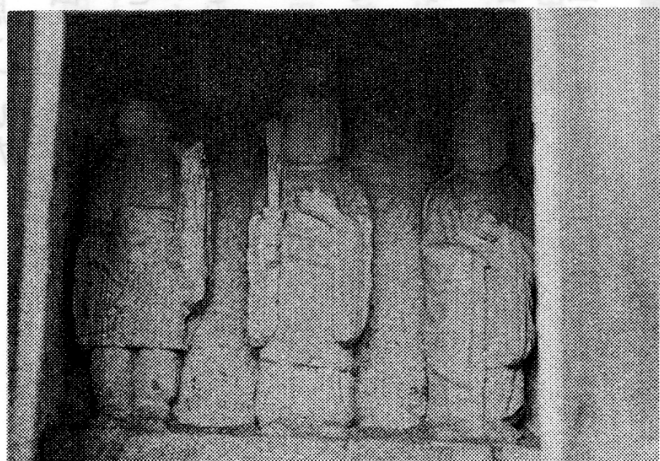
道ばたにぽつんと語ることなく静かに鎮座している石仏が
気になり初めた頃、偶然に、新潟の会員の方のお話しを聞
き、この会に参加する様になりました。庶民の信仰の一つ
である石仏・人はみな石に心を刻むといえます。昔しの人々
は、どんな思いで刻んだのか？益々気になるこの頃です。

今回は武生市の石仏にお逢いする事ができました。積善
寺では、金箔が施されている善光寺式の阿弥陀仏三尊石仏
の美しさに目をみはり、洞源寺の雨宝童子、弁天様、きつ
ねのお顔をした稻荷大明神にお逢いする事もできました。
そして、出雲寺派本山、(さすがが本山、立派な伽藍でした。)
ここでは、鮮やかな緑の苔の絨毯の上に十六人の羅漢さんが
お座りになっている庭を見せていただきました。お釈迦様
の教えを学び、それを実践し、後の世に伝えるのが、羅漢

さんの願いという、石仏の旅をしていると、ときには誰か
さんそつくりだなと思う仏に遭うことがあります。おもわ
ず「何処かでおめにかかった事が、ある様な気がするの
ですが、何処でしたかしら？」と、訪ねてみたくありません。
羅漢さんは人間臭く露骨なので、好まない人もいらつしや
います。私はとても身近に感じます。

今日一日、心おだやかに
なるひと時を過ごすことができ、
感謝しております。又、こ
の会に入り沢山の石仏と皆
様にお逢いでき、私、少し
成長した様な気がします。
次にお逢いする日をたのし
みにしております。

あなたの顔をみてみると
心が静まり、ほっとしま
す。



大山町中大浦

福円寺跡地蔵堂の女神石像

平井 一雄

大山町中大浦にある福円寺は中世以来の真言寺であったが明治3年富山藩の合寺令により廃寺となった。建物は数年前まで残っていたが無住で危険だということで解体されて今はない。

石造物は残されており、阿弥陀三尊仏やカルラ鳥火炎背光を持つ不動明王、弘法大師石像、左立山道の道標など石仏愛好家に紹介したい石仏がいくつもある。特に地蔵堂には中世の板碑型地蔵や梵字板碑なども合祀されている。その中に私の注目している石仏は写真の扇を持った女神像である。神仏混淆の真言寺であるから神像があっても不思議ではないが神名が知りたかった。

熊野川の対岸文殊寺村の建部社女神



を分祀したのではないかと思っていた。

ところが近着の『日本の石仏』1999・12・No.92の加藤孝雄氏論文中に淡島神の写真に扇を持った女神像があり福円寺の女神も淡島明神ではないかとも考えている。

加藤氏論文より引用する。

淡島様は住吉大神のお妃であったが、婦人病の下の病にかかつて臭気が甚だしいために夫に嫌われ、独り小舟に棄てられたが紀州和歌浦に漂着し、稀人として崇敬されて以来婦人の守り神として、全国的に漂着地を名乗る「アワシマ」地名が各地に分布して淡島信仰を見るようになった。後略

像高20センチ位の小石像であり、石仏盗難の難に合わないよう前から見えない位置にずらしておいたが、関心のある会員の研究を期待する。



日本石仏協会総会に参加

2月6日、日本石仏協会の通常総会に参加しました。

東京西池袋の東京芸術劇場という内も外も超モダンな建物の5階中会議室で午前中は理事会、午後から総会が開かれました。午前中の理事会には常任理事を含めて29人が出席して報告、予決算の議案を確認しました。理事の自己紹介の時、富山での一泊見学会への参加をお願いしました。

午後からは全国からの会員が80名弱が集まり事務局が準備した議案書が不足して焼き増しなどに裏方がうれしい悲鳴をあげていたようです。総会では11年度の報告と決算が承認され、12年度の活動計画と予算が提案され承認されました。今年度から各担当の常任理事が提案と説明をすることになりました。

その他のところで現在活動している支部の発表の時間がとられ、群馬、埼玉、神奈川支部の報告の次、北陸支部の報告を私がしました。

平成12年2月8日

平井 一雄



第二十一回例会報告

尾田 武雄

十月十七日福井県武生の石仏探訪を行った。地元の会員の北村さんの軽妙な説明を聞きながら楽しい一日であった。曹洞宗洞源寺の三尊仏は稲荷大明神、弁財天、雨宝童子の三体の神様の並んだお姿は珍しいと思った。聞くところによると、「亡くなった子供のために造立された」といわれています。

時宗寺院積善寺の金箔善光寺三尊、真宗出雲路派法雲寺の十六羅漢石仏に御会いできた。また石材のほとんどが越前石であることも当然であるが、奇麗なものが多かった。充実した一日であった。

北陸石仏の会第二十一回例会出席者

南 金三 加藤永子 齊藤善夫 大野猪策 小竹一夫
 尾田武雄 平野重二 坂本光作
 南外志雄 西村武子 松岡紀美子 上田信子 久世嘉太郎
 鳴 留男 板坂 孝 東田敏男 山田玉枝 毛利直枝
 岡田静子 林 貞子
 北野正明 北村市朗 大久保まさ子 辻角紀子

平成12年度会費(三〇〇〇円)を同封振り込み用紙にて
 納入して下さい。

第二十二回例会案内 (日本石仏協会共催)

富山県砺波地方の石仏となみ

◎日時 平成十二年五月十三日(土)～十四日(日)

◎集合 JR富山駅北口

時間 十三日 午前十一時四十五分

◎解散 JR富山駅北口

時間 十四日 午後四時頃

◎案内者 尾田武雄ほか、北陸石仏の会会員

◎参加費 二〇、〇〇〇円(一泊二日)

一日だけの場合五、〇〇〇円

◎見学予定地

一日目 庄川左岸中筋往来の三十三力所観音・太田萬福しょうがわ

寺の参道・名工森川栄次郎の不動明王・聖徳太

子南無仏(豪華なお堂)・浄光寺じょうこうじの五智如来など

二日目

散居村展望台・散居村の石仏・井波町無量力吼さんきょせん
出町本町の弁財天・不動明王・飯綱権現・太郎でまちはんまち

丸まるの地藏堂・大門地藏など

◎宿泊地

富山県庄川町

庄川峡温泉郷 『庄川荘』

TEL 〇七六三一八二一五一

◎申込締切 五月二日

◎申込先 千九三九一―三二五

砺波市太田一七七〇

北陸石仏の会事務局

TEL・FAX 〇七六三一―三二一―二七七二

今回の例会は、日本石仏協会との共催です。全国の石仏愛好家や石仏研究家と一緒にお話できるチャンスです。日本石仏協会といっても仰々しい学会ではなく、会長は女性の坂口和子さんで親しみやすい会です。女性の方もたくさん参加されています。約二十五人ぐらいかと思えます。ぜひご参加下さい。

当日平成十二年度北陸石仏の会総会も行います。

庄川扇状地の砺波平野は散居村で全国的に有名です。散居村とは各農家が百メートルから三百メートルはなれ散りじりばらばらに点在していることをいいます。杉に囲まれた屋敷林が綺麗です。特に五月中旬田んぼに水が入り夕日が美しいです。

信仰は真宗王国と言われるくらい真宗風土の地です。しかし素敵な石仏がたくさんあり楽しい出会いがあります。